



使用上の注意

取扱い上の注意

クラッチ・ブレーキ本体

電磁クラッチ・ブレーキには軟質の材料を多く使用しています。叩いたり、落としたり、または無理な力を加えますと、打ち傷や変形を生じますので、取扱いにご注意ください。

リード線

電磁クラッチ・ブレーキのリード線を無理に引っ張ったり、鋭角に折り曲げたり、リード線を持ってぶら下げたりしないようにしてください。

軸受

軸受を損傷させないため、振動・衝撃を与えないようにしてください。

保護素子

直流側でスイッチを切ったとき、逆起電圧（バックサージ）が発生しますので、そのまま使用すると、コイルの絶縁劣化やスイッチ接点の劣化・焼損を生じ、さらには周辺機器に悪影響を与えることがあります。適切な保護素子をコイルと並列に接続し、放電回路を構成することが必要です。

カップリングの取付け位置(MWC形)

カップリングの取付け位置は、表2およびP50の図5を参照のうえ、取り付けてください。

カップリングの取付けボルトは7T以上を使用し、ボルト先端はカップリングの端面（M寸法、P42～43参照）以内になるようにしてください。

表2 カップリングの取付け位置（A寸法）

形番	A寸法±0.2 [mm]
MWC 1.2	5.5
MWC 2.5	5.5
MWC 5	6
MWC 10	6.5
MWC 20	9.5
MWC 40	14
MWC 80	17
MWC 160	23
MWC 250	25
MWC 320	30
MWC 450	36
MWC 600	36

使用上の注意

摩擦面

MW形クラッチ・ブレーキは湿式用であるため、摩擦面は必ず潤滑状態でご使用ください。潤滑が不十分の場合、摩擦面の焼付き、変形などを発生することがありますので、十分ご注意ください。

摩擦面のすり合わせ

当クラッチ・ブレーキは摩擦面が十分なじんでない場合、初期から規定トルクが出ないこともあります。この場合は、摩擦面の外周温度が80℃以上にならないように注意して、軽負荷でならし運転をしてください。

供給電圧

電磁クラッチ・ブレーキは、励磁電圧によってトルクが変動しますので、規定の電圧を供給してください。なお、電源電圧が規定通りであっても、配線の引回しが長い場合、線路抵抗により電圧が降下しますので、電圧の確認は通電時にリード線の端子部分で行ってください。

ギヤボックス・ケーシングの構造

ギヤボックスやケーシング内に組み込む場合は、クラッチ・ブレーキを容易に点検できるように、なるべくカバーを取り外しできる構造にしてください。

電源装置

MWCシリーズ 適用電源装置仕様

表3

クラッチ形番 MWC	電源形番	整流方式	周波数 [Hz]	交流入力電圧 AC[V]	直流出力電圧 DC[V]
1.2・2.5	OTPF/H25	単相全波	50/60	100/200	24
5・10	OTPF/H45	単相全波	50/60	100/200	24
20・40	OTPF/H70	単相全波	50/60	100/200	24
80・160	OTPF/H130	単相全波	50/60	100/200	24
250・320・450・600	OTPF/H240	単相全波	50/60	100/200	24

OTPF形の入力電圧はAC100～120V、OTPH形の入力電圧はAC200～240Vです。詳細はP60を参照してください。

MWBシリーズ 適用電源装置仕様

表4

ブレーキ形番 MWB	電源形番	整流方式	周波数 [Hz]	交流入力電圧 AC[V]	直流出力電圧 DC[V]
1.2・2.5・5	OTPF/H25	単相全波	50/60	100/200	24
10・20・40	OTPF/H45	単相全波	50/60	100/200	24
80	OTPF/H70	単相全波	50/60	100/200	24
160	OTPF/H130	単相全波	50/60	100/200	24

OTPF形の入力電圧はAC100～120V、OTPH形の入力電圧はAC200～240Vです。詳細はP60を参照してください。

保護素子

MWCシリーズ保護素子（付属品）

表5

クラッチ形番	1.2・2.5・5・10・20	40・80・160	250・320・450・600
保護素子	TNR14V121K	TNR20V121K	50Ω (50W)
許容頻度 (回/分)	40	20	5

注意：使用着脱頻度が上記の値を超える場合は、保護素子焼損のおそれがありますので、ご相談下さい。

MWBシリーズ保護素子（付属品）

表6

ブレーキ形番	1.2・2.5・5・10・20	40・80	160
保護素子	TNR14V121K	TNR20V121K	50Ω (50W)
許容頻度 (回/分)	40	40	10

注意：使用着脱頻度が上記の値を超える場合は、保護素子焼損のおそれがありますので、ご相談下さい。

取付け上の注意

MWC

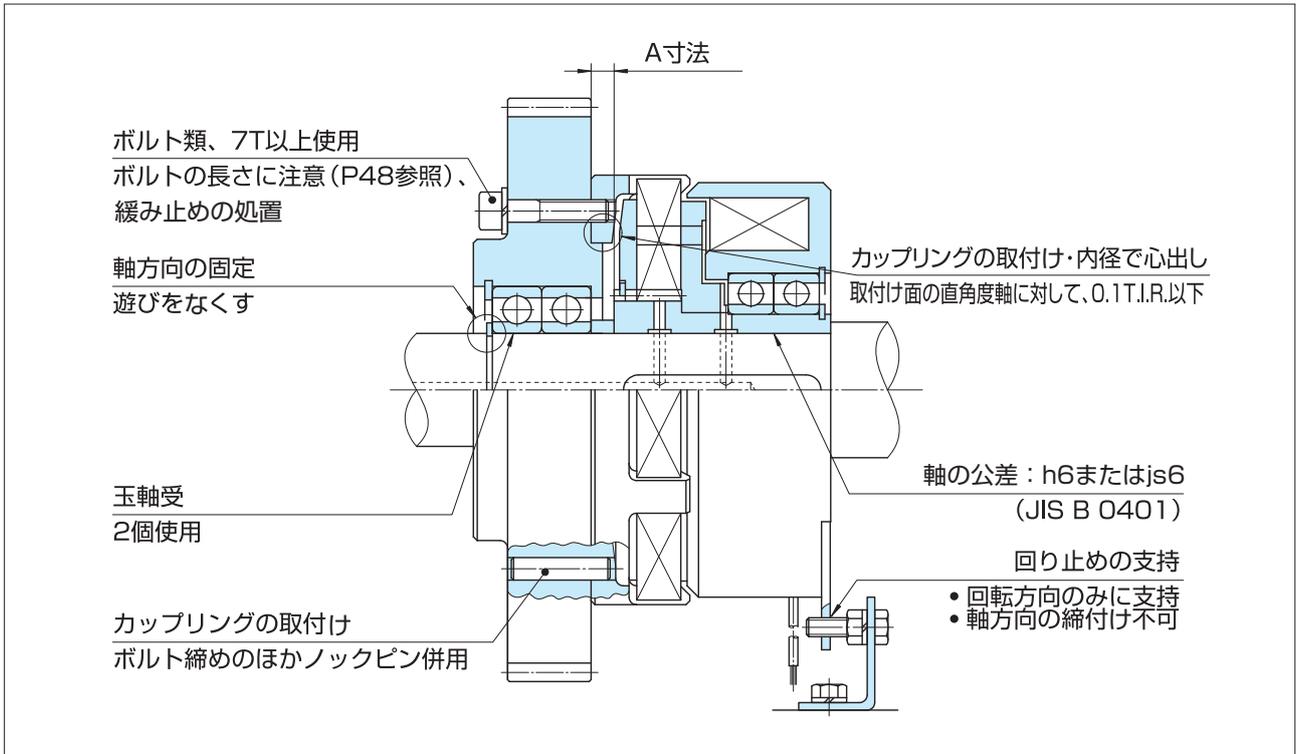


図5

MWB

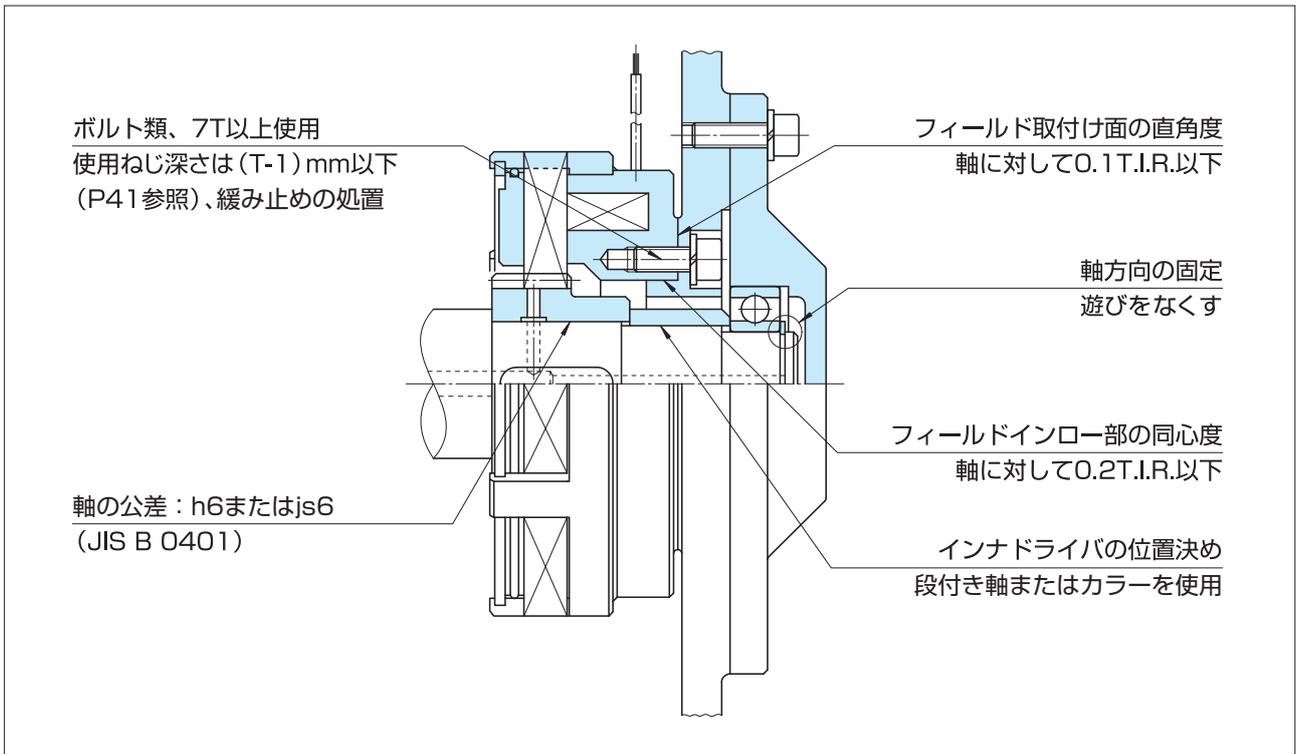


図6

MWC

MWC形クラッチを突き合わせ軸に使用し、パイロットベアリングによって心出しを行った基本例

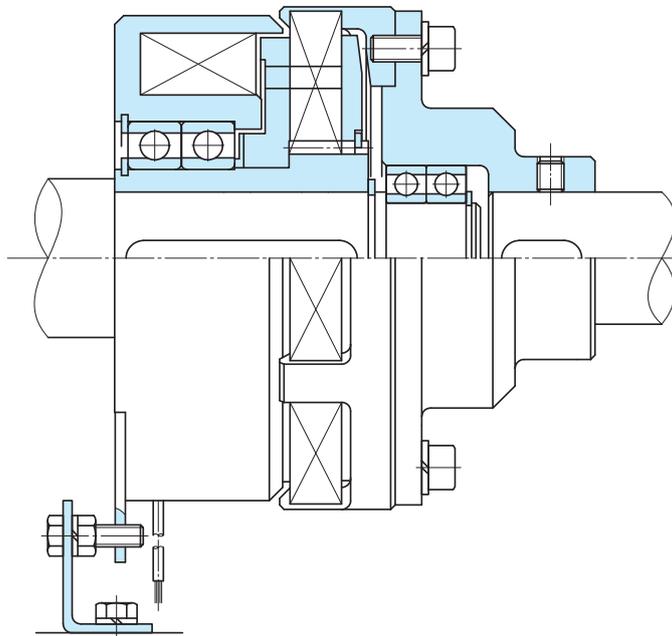


図7